

ずっと多古で暮らす



第10回



高齢になっても、介護が必要になっても、住み慣れた多古町で暮らしたい。最終回となる第10回は、分野や世代を超えたつながりを生み出し、困ったときにお互いに助け合える関係をつくるネットワーク「タコ足ケアシステム」の紹介です。

「タコ足配線」みたいに

2014年12月に福祉事業所の職員、商店街の店主、役場の職員の数名の集まりから始まった「タコ足ケアシステム（以下、タコ足）」の活動。このネットワークには、代表もいなければ、ルールもありません。「タコ」の吸盤に吸い付くように、地域の困りごとを結びつけて解決したい。「タコ足配線」のようにいろいろな

やモノ、コトがつながっていくネットワークにしたい」という思いの共有から始まりました。

当時、吸盤に吸いついた困りごとには、「商店街にお客さんが来なくて閉めてしまう商店が多い」「ケアに関わる仲間をもっと増やしたい」「みんなで学んだり考えたりする場を作りたい」などがあり、解決に向けて話し合ったり、ゲストを招いて勉強会をしました。

困りごと×困りごとでみんなが笑顔に

メンバー同士が少しずつお互いを知るようになると、お互いの困りごとを話すようになり、自分たちで何かできないかと考えるようになりました。

そこからいくつものつながりが生まれ、少しずつネットワークが広がっていききました。そして、プロジェクトを通じて困りごとが解決され、たくさん笑顔が生まれました。地域の人と人がゆるくつながるタコ足の、7年間の活動の中から6つのエピソードを紹介します。

1. ひかり学園「歩け歩け大会」

健康増進と地域交流を目的として開催していた横の実会の歩け歩け大会。開催当初は、ひかり学園から横芝光町の光スポーツ公園まで歩く行事でしたが、タコ足で町内の方々のご縁が深まった頃、ある方から「そんな山道歩いてないで、町中を歩いてみなよ」と声が掛かりました。

思ってもみなかったこの声をきっかけに町内の神社やお寺・商店にご協力をいただき、商店街をフィードとした歩け歩け大会となりました。今では、回を重ねるごとに、一般参加者も増え、多くの方々が関わる行事となっています。



2. バナナジュースでみんなが笑顔

「最近おばあちゃんの元気がなく心配」と相談を受け、タコ足メンバーが思いついたのは「バナナジュースプロジェクト」。ご本人が長年営んでいたバーラーのジュースをみんなに振る舞ってもらう会を開きました。

最初は「楽しみ」よりも「不安」が強かったそうですが、ご家族のサポートもあり、昔の記憶を思い出しながら当日に臨んだ萩原菊枝さん。人数の多さに驚きつつも、参加者のみんなから「おいしいね」「ありがとう」と言われ、とてもうれしくなったそうです。ご家族は「ふさぎ込みがちになっていた祖母が外に出るきっかけを作ってくれた」コマで



す」と話します。

3. 薬剤師の仕事をお手伝い

国保多古中央病院の薬剤師からタコ足に持ち込まれた相談は、高齢の患者さん用の薬箱の製作でした。牛乳パックを使って作るオリジナル品で、薬剤師が仕事の合間に製作していましたが、その製作を誰かにお願いできないかという内容でした。

「一人じゃできないけど、みんなであればできるかも」とタコ足メンバーは考えました。病院の職員から集めた牛乳パックをひかり学園のリサイクル班のみんなが丁寧に洗浄します。その後、多古特養と木もれびの家の職員と利用者で組み立てるという町内循環型のプロジェクトとして、牛乳パックの薬箱の大量製作が可能となりました。

みんなが得意分野を生かし、できることを行い、つながって解決することもタコ足のコンセプトの一つです。

4. 気まぐれ駄菓子屋さん

「たこのつぼ」

多古新町ハウスの寺子屋をお借りして始めたおばちゃん二人組の駄菓子屋さん。現在、コロナ禍のため活動休止中ですが、新町ハウスの利用者や近所の人、多古高生など、いろいろな人たちがふらっと立ち寄って、自由気ままなひとときを過ごす場所です。



コーヒープレイクやランチ、時には小さな手芸教室になったり、勉強したり、おしゃべりをしたりと、人と人がつながることがすてきたなど感じられるたこのつぼです。

5. まちをアルバムにする

日本工業大学の勝木研究室が、埼玉宮代町で活動を始めた「まちをアルバムにする」プロジェクト。タコ足メンバーがその話を聞いて、「多古町でもやりたい！」という思いからスタートしたこの企画。第一回目は、商店街の3店舗にご協力いただき、店主の皆さんの若かりし頃の思い出の写真を等身大のパネルにしました。

何よりもうれしかったことは、思いついた写真を通して、埼玉から来た

大学生たちと町民の皆さんにたくさんのお話が生まれたことで、とても豊かな時間となりました。今では、あじさい祭りやいきいきフェスタのイベントとしても定着し、多古高生が地域を回り、たくさんのお話を重ねながら、地域の方たちの思い出が詰まった等身大パネルを作成しています。

次は誰がパネルになるのか、楽しみます。



6. たこまち水族館

フランス語で「初めて」を意味する「ブルミエ」という酒屋が店じまいたのが3年前。

店主の押田英雄さんは、この跡地に地域の人たちが描いた絵を飾ったりして、いろいろな人たちがつながり合うような場所にできたらいいな

と思っていました。しかしながら、なかなかそんな時間もなくて、そのままになってしまっていたところに、「たこまち水族館」の話が舞い込んできました。

町民総活躍でまちを元気に！

今回紹介した活動のほかにも、商店街のパン屋さん、靴屋さんが障がいのある人の活動場所を提供したり、商店街に施設利用者の絵を飾ったりと人・モノ・コトをつないだ地域のネットワーク活動を行ってきました。

「町民総活躍でまちを元気に！」を合言葉に障がいがある人もない人も、高齢者も若者も大人も子どももみんなでゆるく楽しくまちづくりを盛り上げていきたいと考えています。タコ足ケアシステムの活動は、ルールも何も無い、ゆるやかな集まりで、誰でも自由に参加できます。あなたができること、興味のある活動から参加してみてもいいでしょう。

お問い合わせ ● 保健福祉課介護保険係

☎ 76-3185